

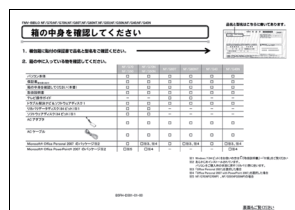
# ESPRIMO

## 補足情報

『取扱説明書』の補足情報です。  
より詳しい使い方や、細かい設定を変更する方法などを説明しています。

●パソコンに添付の紙マニュアルもあわせてご覧ください。  
ただし、このほかにもマニュアルが添付されている場合があります。

『箱の中身を確認してください』



添付の機器、マニュアルなどの一覧です。ご購入後、すぐに、添付品が揃っているか確認してください。

『取扱説明書』



使用上のご注意、パソコンを使うための準備、基本的な取り扱い方法、ご購入時の状態に戻す方法、お問い合わせ方法などを説明しています。

# 目次

本書をお読みにする前に		文字コードの取り扱いに関する注意	47
本書の表記	2		
商標および著作権について	4		
1. ディスプレイ			
表示できる解像度と発色数	5		
画面の解像度や発色数の変更	6		
表示するディスプレイの切り替え	8		
2. サウンド			
再生時／録音時のサウンドを調節する	12		
3. 通信			
LAN	15		
4. スリープ／休止状態			
スリープ／休止状態とは	23		
スリープ／休止状態にするうえでの注意	23		
スリープ／休止状態の設定変更	24		
電源プラン	26		
5. ソフトウェア			
ソフトウェアをインストール／アンインストールするうえでの注意	27		
インストール	28		
アンインストール	30		
6. ハードディスクの領域について			
CドライブとDドライブの割合を変更する	31		
リカバリ領域を削除する	33		
リカバリ領域を復元する	34		
7. BIOS の設定			
BIOS セットアップの操作	36		
BIOS のパスワード機能	39		
BIOS が表示するメッセージ一覧	43		

# 本書をお読みになる前に

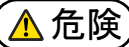


## 本書の表記

本書の内容は 2013 年 7 月現在のものです。

### ■ 安全にお使いいただくための絵記号について





このマニュアルでは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するためのシンボルマークと警告絵文字を使っています。

#### □ 警告レベルを表すシンボルマーク








 <b>危険</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあり、その切迫の度合いが高いことを示しています。
 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

#### □ 危険や障害の内容を表す警告絵文字




△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。

 破裂注意	特定の条件において、破裂する可能性について注意を喚起します。	 高温注意	特定の条件において、高温による傷害の可能性について注意を喚起します。
 レーザー光注意	特定の条件において、レーザー光を直視する危険性について注意を喚起します。	 指のケガに注意	特定の条件において、ケガする可能性について注意を喚起します。

⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。

 一般禁止	一般的な禁止行為や禁止事項を示します。	 火気禁止	特定の条件において、外部の火気によって製品の発火する可能性を示します。
 接触禁止	特定の条件において、機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性を示します。	 水場使用禁止	防水処理のない機器を水場で使用して漏電によって傷害が起こる可能性を示します。
 分解禁止	機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性を示します。	 ぬれ手禁止	機器を濡れた手で扱うと、感電する可能性を示します。
 水ぬれ禁止	防水処理のない機器を水がかかる場所で使用または、水に濡らすなどして使用すると、漏電して感電や発火する可能性を示します。		

●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。






 アース線を接続せよ	安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続するように指示します。	 プラグを抜け	故障時や落雷の可能性がある場合、使用者に電源プラグをコンセントから抜くように指示します。
 一般指示	特定しない一般的な使用者の行為を指示します。		

## ■ 危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。  
これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

## ■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	冊子のマニュアルを表しています。
	CD や DVD などのディスクを表しています。
	参照ページを表しています。

## ■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。


例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

## ■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「▶」でつなげて記述しています。

例：  (スタート) をクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓  
 (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」の順にクリックします。

## ■ 画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

## ■ 製品の呼び方

このマニュアルでの製品名称を、次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
Windows 7 Professional 64 ビット 正規版 Service Pack 1 適用済み	Windows または Windows 7 または Windows 7 (64 ビット版) または Windows 7 Professional
Windows 7 Home Premium 64 ビット 正規版 Service Pack 1 適用済み	Windows または Windows 7 または Windows 7 (64 ビット版) または Windows 7 Home Premium
Windows Vista	Windows または Windows Vista
Windows XP	Windows または Windows XP
Microsoft Office Personal 2013	Office または Office Personal
Microsoft Office Home and Business 2013	Office または Office Home and Business
スーパーマルチドライブ	CD/DVD ドライブ

## 商標および著作権について

インテル、Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2013

# 1. ディスプレイ

## 表示できる解像度と発色数

ここでは、このパソコンで表示できる画面の解像度や発色数について説明しています。

解像度とは、縦横にどれだけ点（ピクセル）を表示できるかを示すものです。解像度を高く（大きい数字に）すると画面を広く使えるようになり、多くのウィンドウを表示できます。発色数を増やすと画面に表示できる色数が多くなります。

### Point

- ▶ ソフトウェアによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

### 重要

- ▶ このパソコンでは、次の表に書かれている解像度でお使いください。
- ▶ ディスプレイ切り替え器などをお使いになると、解像度やリフレッシュレートを正しく設定できないことがあります。その場合は、パソコン本体とディスプレイを直接接続してお使いください。
- ▶ 次の場合は設定を変更しないでください。正しく表示されないことがあります。
  - ・ DVD-VIDEO などの動画再生時

解像度（ピクセル）	設定可能な発色数 [注 1]	
	High Color (16 ビット) [注 2]	True Color (32 ビット) [注 3]
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○

解像度（ピクセル）	設定可能な発色数 [注 1]	
	High Color (16 ビット) [注 2]	True Color (32 ビット) [注 3]
1280 × 800	○	○
1440 × 900	○	○
1600 × 900	○	●

注 1： ○は表示可能、●はご購入時の設定です。

注 2： High Color（16 ビット）…6 万 5 千色

注 3： True Color（32 ビット）…1677 万色

## ■ 同時表示の場合

このパソコンでは、2 台のディスプレイを接続して、両方に同じ画面を表示すること（同時表示）ができます。

同時表示するときに表示できる解像度と発色数は、両方のディスプレイでサポートしている解像度と発色数です。

このマニュアルとあわせて、お使いのディスプレイのマニュアルもご覧ください。

## ■ マルチモニターの場合

このパソコンでは、2 台のディスプレイを接続して、2 つの画面で 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。

マルチモニター機能をお使いの場合の、表示できる解像度と発色数は、両方のディスプレイでサポートしている解像度と発色数です。

このマニュアルとあわせて、お使いのディスプレイのマニュアルもご覧ください。

# 画面の解像度や発色数の変更

ここでは、このパソコンで表示する画面の解像度や発色数を変更する方法について説明しています。

## 解像度や発色数を変更するときの注意

- 解像度や発色数を変更する前に、作業中のデータを保存し、常駐しているものを含むすべてのソフトウェアを終了させてください。
- 解像度や発色数の設定によっては、画面表示の調整が必要な場合があります。詳しくは、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるソフトウェアの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- 解像度を変更するとき、一時的に画面が乱れることがありますが、動作には問題ありません。

## 解像度や発色数を変更する

- 1 デスクトップの何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

- 2 解像度を変更します。

「解像度」の▼をクリックし、解像度を変更します。



解像度の変更  
▼ をドラッグ  
します。

(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 3 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。

画面の指示に従って操作してください。

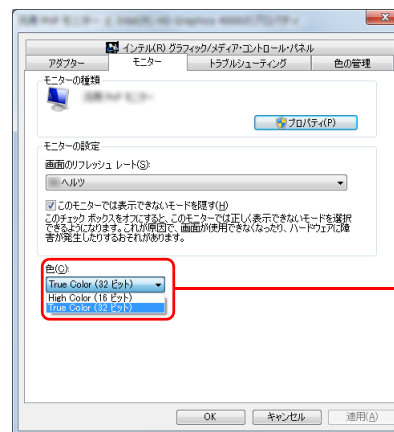
発色数を変更しない場合は、手順9に進んでください。

- 4 「詳細設定」をクリックします。

- 5 「モニター」タブをクリックします。

- 6 発色数を変更します。

「色」の▼をクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。



発色数の変更

▼ をクリックして発色数を選びます。

- 7 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。

画面の指示に従って操作してください。

- 8 「OK」をクリックします。

「画面の解像度」ウィンドウに戻ります。

- 9 「OK」をクリックします。



# 表示するディスプレイの切り替え

ここでは、ディスプレイを2台接続して、同時表示や、マルチモニター機能を使用する方法について説明しています。

## ディスプレイの接続

### ■ 必要なものを用意する

- ディスプレイ
- ディスプレイケーブル
- ディスプレイのマニュアル

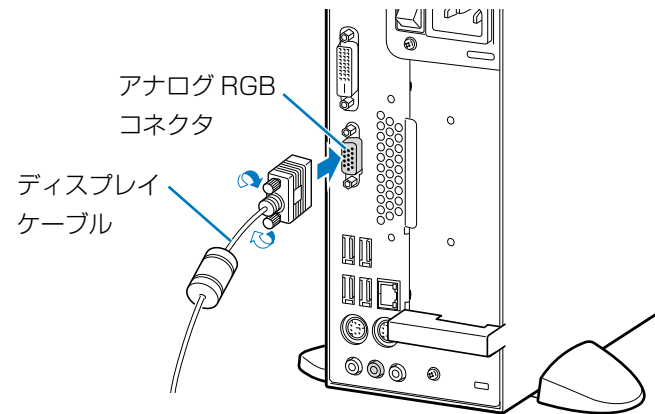
### ■ ディスプレイを接続する

#### 警告



- ディスプレイの接続／取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。  
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜きます。
- 2 パソコン本体のコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。  
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込んでください。



(イラストは機種や状況により異なります)

- 3 ディスプレイにディスプレイケーブルのもう一方のコネクタを接続します。  
接続方法は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4 パソコン本体の電源ケーブルをコンセントに差します。
- 5 ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。
- 6 パソコン本体の電源を入れます。  
続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

#### Point


- ▶ ディスプレイを接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。必要なファイルをインストールしてください。ディスプレイに CD-ROM などが添付されていることもあります。

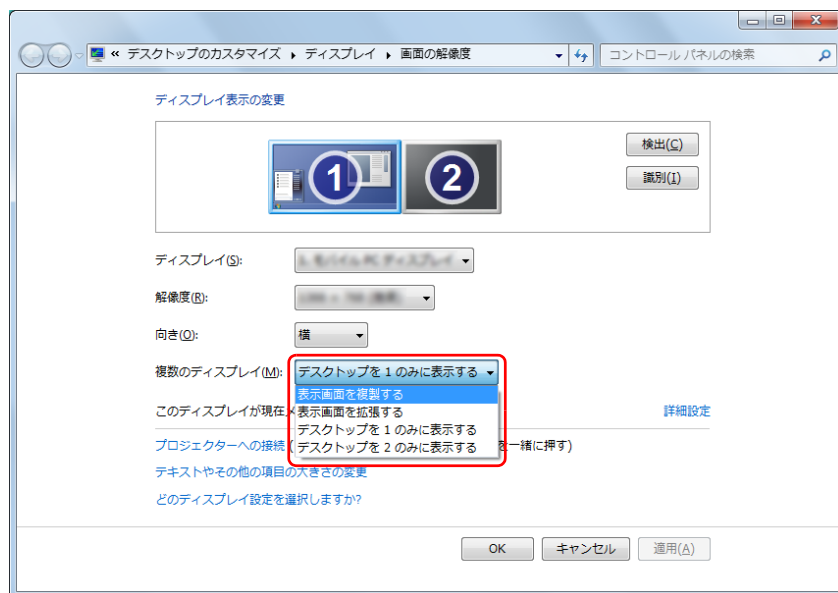
## 同時表示にする

ここでは、接続した 2 つのディスプレイの両方に同じ画面を表示する（同時表示）方法と、表示するディスプレイを変更する方法を説明します。2 つの画面で 1 つのデスクトップを表示する（マルチモニター機能）方法については、「マルチモニター機能を使う」（→ P.10）をご覧ください。

- 1 デスクトップの何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

- 2 「複数のディスプレイ」の  をクリックし、表示するディスプレイを変更します。



（画面は機種や状況により異なります）

- ・ 同時表示の場合：「表示画面を複製する」
- ・ 表示するディスプレイを変更する場合：「デスクトップを 1 のみに表示する」または、「デスクトップを 2 のみに表示する」

- 3 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従って操作してください。

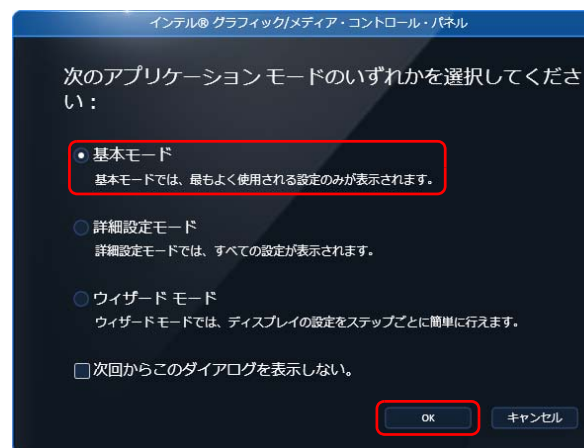
## マルチモニター機能を使う

### ■ マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

- マルチモニター機能をお使いになる場合は、「マルチモニター機能を使う」の手順に従って操作してください。それ以外の手順では、正しく動作しないことがあります。
- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- マルチモニター機能を使用中は、次の点に注意してください。
  - ・ 2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、主ディスプレイと2番目のディスプレイの設定を変更しないでください。
  - ・ 2番目のディスプレイのみに表示されているソフトウェアを起動中に、2番目のディスプレイの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- 一部のスクリーンセーバーは、主ディスプレイのみに表示されます。
- 解像度／発色数について
  - ・ 最大解像度は、接続したディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
  - ・ 主ディスプレイと2番目のディスプレイで、別々の発色数を設定しないでください。

### ■ マルチモニター機能を使う

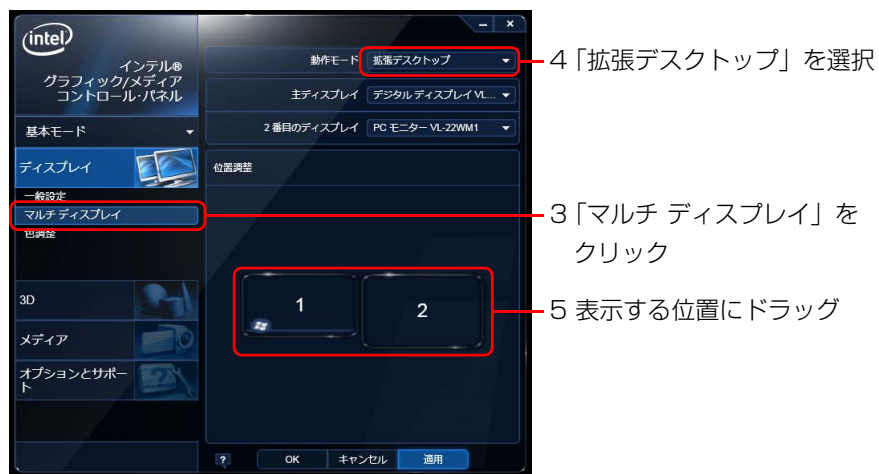
- 1 デスクトップの何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから「グラフィック プロパティ」をクリックします。「インテル® グラフィック / メディア コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください:」というメッセージが表示された場合は、「基本モード」を選択し、「OK」をクリックします。「次回からこのダイアログを表示しない。」のをにすると、次回以降このウィンドウは表示されません。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 3 左の一覧から「マルチ ディスプレイ」をクリックします。
- 4 「動作モード」の▼をクリックし、一覧から「拡張デスクトップ」をクリックします。

## 5 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。



## 6 「適用」をクリックし、ディスプレイを切り替えます。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従って操作してください。

## 7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

### Point

- ▶ 主ディスプレイ、2 番目のディスプレイの解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「一般設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。
- ▶ 手順 5 のイラストの配置により、ディスプレイ間の項目の移動方法が決定されます。ディスプレイ間で項目を左右にドラッグして移動させたい場合はイラストを横に並べて配置し、項目を上下にドラッグして移動させたい場合はイラストを縦に並べて配置します。  
なお、イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。実際にはディスプレイが横に並んでいても、イラストは上下に並べて配置できます。


## 2. サウンド

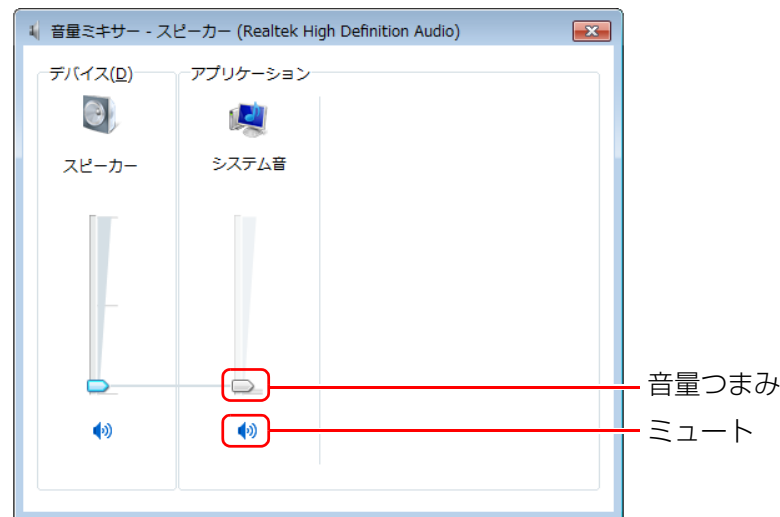
### 再生時／録音時のサウンドを調節する

このパソコンのサウンドを調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。






### ソフトウェアごとに音量を調節する

音が出るソフトウェアごとに音量を調節することができます。

- 1 音量を調節したいソフトウェアを起動します。
- 2  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「ハードウェアとサウンド」 ▶ 「サウンド」 の 「システム音量の調整」 の順にクリックします。「音量ミキサー」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「アプリケーション」 の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



(画面は機種や状況により異なります)

- ・デバイス  
このパソコンのスピーカーから出る音量です。
  - ・アプリケーション  
起動しているソフトウェアごとに音量を調節できます。「デバイス」に設定した音量が最大値になります。
  - ・音量つまみ  
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。
  - ・ミュート  
ここをクリックして  にすると音が消え、画面右下の通知領域の表示が  に変わります。  
もう一度クリックして  にすると元の音量に戻り、画面右下の通知領域の表示も  に戻ります。
- 4  (閉じる) をクリックします。「音量ミキサー」 ウィンドウが閉じます。

## 再生や録音する機器ごとに音量を調節する


このパソコンで再生や録音をする機器（スピーカーやマイクなど）ごとに、音量を調節することができます。

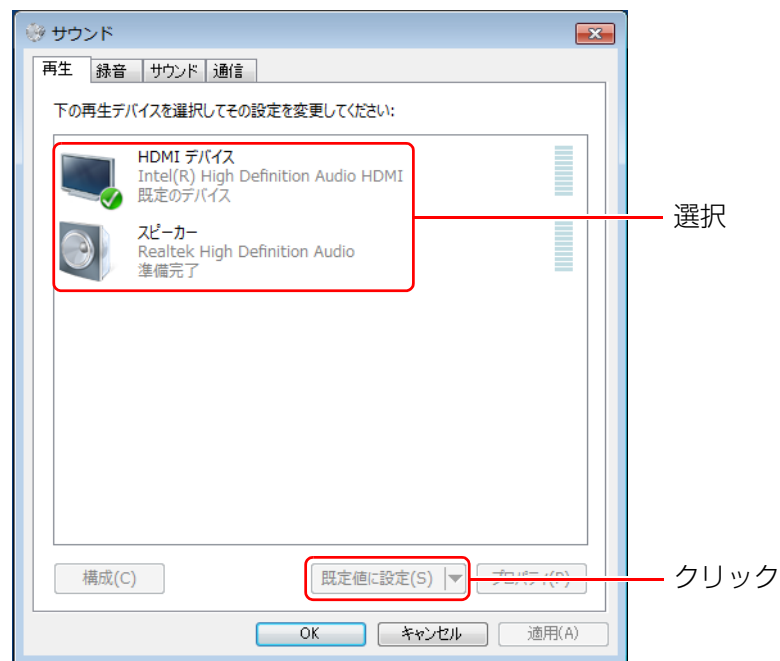
### ■ 再生や録音する機器を選択する

このパソコンで音声を再生したり録音したりするときに、音声の出力先を選択することができます。

#### Point

- ▶ マイク端子やライン端子は、各端子に機器が接続されている場合にのみ選択することができます。

- 1  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「ハードウェアとサウンド」 ▶ 「サウンド」 の順にクリックします。「サウンド」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「再生」 タブや 「録音」 タブで機器を選択し、「既定値に設定」 をクリックします。



(画面は機種や状況により異なります)

選択した機器にチェックマークが付きます。

- 3 「OK」 をクリックします。「サウンド」 ウィンドウが閉じます。

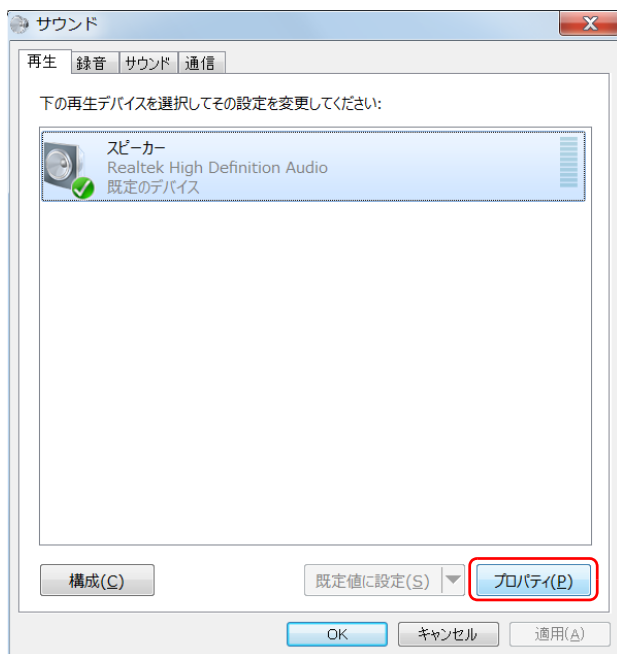
## ■ 再生や録音する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

- 1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

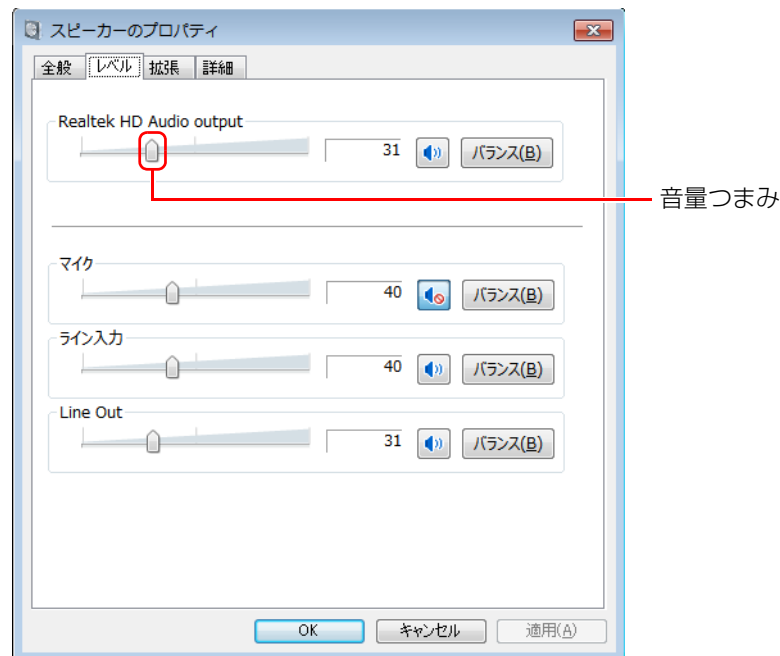
- 2 「再生」タブや「録音」タブで機器を選択し、「プロパティ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 3 「レベル」タブをクリックします。

- 4 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



- ・ : スピーカーから音が聞こえます。
- ・ : スピーカーから音が聞こえません (ミュートになっています)。
- ・ 「バランス」: 左右の音量のバランスを調節できます。

- 5 「OK」をクリックします。

- 6 「OK」をクリックします。  
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

### LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。

#### 重要

- ▶ セキュリティ対策をしてください

初めてインターネットに接続するときは必ずセキュリティ対策をしてください。

このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なコンピューターウイルスが出現している可能性があります。初めてインターネットに接続する場合は、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。

### 必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

- ネットワーク機器  
ネットワーク接続の目的に合わせて、お使いになるネットワークのスピードに合ったものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。
  - ・ダイヤルアップルーター
  - ・ブロードバンドルーター
  - ・ブロードバンドモデム
  - ・ハブ
- LAN ケーブル  
ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧ください。
- ネットワーク機器のマニュアル  
お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルや、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもご覧ください。



## LAN ケーブルを接続する

### 警告



- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による感電、火災の原因となります。

### 注意



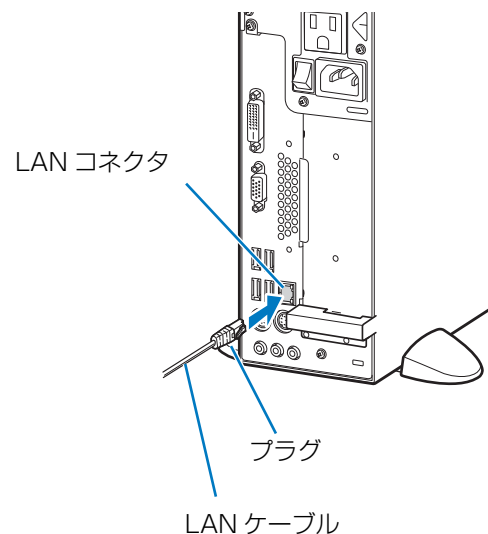
- LAN コネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。



- LANケーブルを接続する場合は、必ずLANコネクタに接続してください。

接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 パソコン本体背面のLANコネクタに、LANケーブルを接続します。



- 3 LANケーブルをネットワーク機器に接続します。  
手順 2 で接続したケーブルのもう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続し、ネットワーク機器の電源を入れます。
- 4 パソコン本体の電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 5 パソコン本体の電源を入れます。

**P**oint

- ▶ LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。  
なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるよう設定されています。前述のような不都合がある場合には、「電源オプション」ウィンドウで「コンピューターをスリープ状態にする」を、「なし」に設定してください（→ P.25）。
- ▶ LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

続いてネットワークの設定をします。

## ネットワークの設定をする

ネットワークへは、「TCP/IP の設定」と「フルコンピューター名とワークグループの確認」を行うことにより接続することができます。


**重要**

- ▶ 既存のネットワークに接続する場合は、すでにあるネットワークに接続する場合は、それぞれの設定内容について確認してください。

### ■ TCP/IP の設定

**P**oint

- ▶ TCP/IP の設定を変更する場合は、Windows に「コンピューターの管理者」アカウントまたは「Administrators」グループのメンバーとしてログオンしてください。

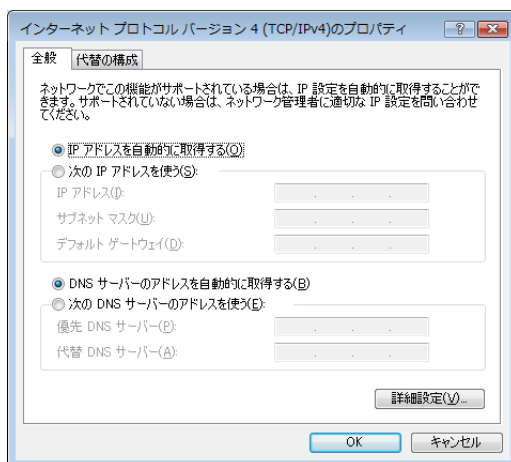
- 1  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」の順にクリックします。
- 2 「ネットワークと共有センター」ウィンドウ左の「アダプターの設定の変更」をクリックします。  
ネットワーク接続の一覧が表示されます。
- 3 一覧から、「ローカルエリア接続」を右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
- 4 「接続の方法」が次の名称であることを確認します。  
「Realtek PCIe GBE Family Controller」

### Point

- ▶ 「接続の方法」が上記以外の場合は、「キャンセル」をクリックし、別の接続を選択してください。

**5 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から、「インターネット プロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。**

**6 IP アドレスの設定をします。**



(画面は機種や状況により異なります)

#### ●ネットワーク上にブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーがある場合

1. 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が  になっていることを確認します。
  - になっている場合は、 をクリックして  にします。

#### ●ネットワーク上に DHCP サーバーがない場合

1. 「次の IP アドレスを使う」の  をクリックして  にします。
2. 「IP アドレス」に IP アドレスを入力します。  
例：192.168.0.2

3. 「サブネットマスク」にサブネットマスクを入力します。  
例：255.255.255.0

### Point

- ▶ IP アドレスの重複にご注意ください。  
ブロードバンドモデムやルーター、およびパソコン本体のそれぞれに IP アドレスを重複しないように設定してください。IP アドレスが重複すると、ネットワークによる通信ができません。

**7 「OK」をクリックします。**

**8 「閉じる」をクリックします。**

**9 「ネットワーク接続」ウィンドウの  をクリックします。**

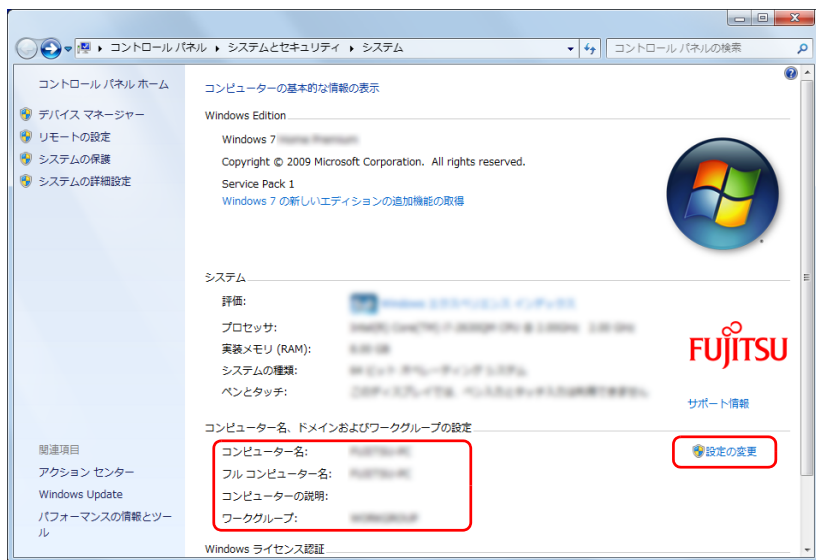
続いて、フルコンピュータ名とワークグループを確認します。

## ■ フルコンピューター名とワークグループの確認



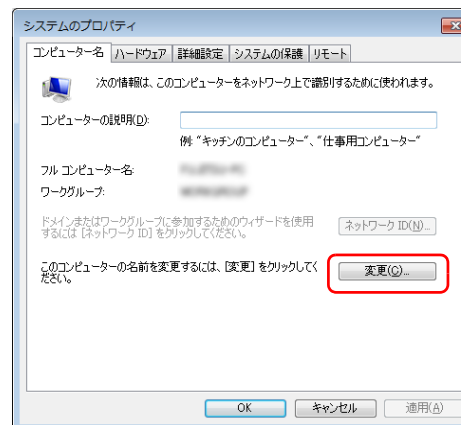
▶ フルコンピューター名、ワークグループを変更する場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

- 1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「システム」の順にクリックします。
- 2 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「フルコンピューター名」、「ワークグループ」を確認します。変更する場合は「設定の変更」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 3 「システムのプロパティ」ウィンドウで「変更」をクリックして、「フルコンピューター名」または「ワークグループ」を変更します。



### ● フルコンピューター名

ネットワーク上で、パソコンを識別するための名前です。設定するときには、他のパソコンと重複しないように、半角英数字 15 文字以内で名前を付けてください。機種名やパソコンの使用者名などをフルコンピューター名に設定すると、識別しやすくなります。

### ● ワークグループ

ネットワークにつながったパソコンの集まりを表します。複数のパソコンに共通のワークグループの名前を付けると、同じネットワークにつながっている「仲間」として、ネットワーク上でファイルやプリンターの共有が行えます。

ワークグループは、半角英数字 15 文字以内で好きな名前を付けることができます。通常、ネットワークを組むときは、各パソコンに同じワークグループを設定してください。

- 4 「OK」をクリックします。

再起動を確認するメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

## LAN で困ったら

ここでは、LAN に接続するうえで起きたトラブルを「Plugfree NETWORK」の「ネットワーク診断」を使って解決する方法について説明しています。「ネットワーク診断」には次のような機能があります。

- 診断と対処

ネットワーク接続の状態を診断し、トラブルがあった場合はトラブルを解決するための対処方法やヒントをお知らせします。


- 情報収集

「ネットワーク診断」が診断時に収集したネットワークの情報を表示したり、その情報を保存することができます。

- ネットワーク関連項目や情報へのリンク

Windows のコントロールパネルのネットワークの項目、「Internet Explorer」の設定など、ネットワーク接続に関する設定や情報へ「ネットワーク診断」から直接アクセスできます。

## ■ 「ネットワーク診断」 を使う

- 1  (スタート) ▶ 「すべてのプログラム」 ▶ 「Plugfree NETWORK」 ▶ 「ネットワーク診断」 の順にクリックします。

「ネットワーク診断」 が起動します。

- 2 「ローカルエリア接続」 をクリックします。

ネットワーク接続を診断し、診断結果が表示されます。



(画面は機種や状況により異なります)

診断の結果、トラブルがあった場合、赤色の顔マークが表示されます。

1. 赤色の顔マーク左の診断結果を確認します。
2. 「対処方法はこちら」 をクリックします。  
トラブルの対処方法またはヒントが表示されます。
3. 対処を行った後、「再診断」 をクリックして診断を再実行します。

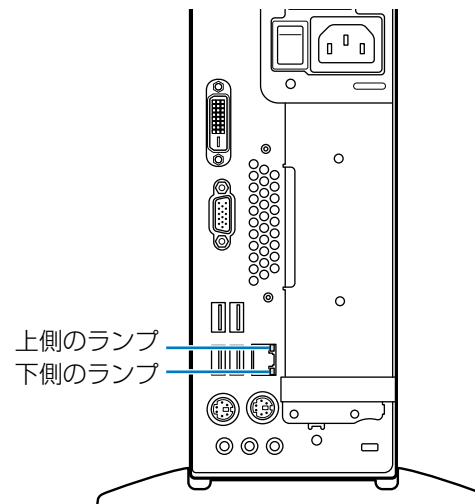
### Point

- ▶ 「再診断」で同じところが赤色の顔マークで表示されても、診断結果や対処方法の表示内容が異なる場合があります。

以後トラブルが解決するか、または対処することがなくなるまで、表示に沿って確認、対処、再診断を行ってください。表示されているアイコンなどの意味については、「ヘルプ」をクリックして表示される説明をご覧ください。

## 接続状態と接続速度

このパソコンでは、LAN コネクタの上下にあるランプの色で接続状態や接続速度を表示しています。



(イラストは機種や状況により異なります)

ランプの色と接続状態や接続速度は、次のとおりです。

	上側のランプ	下側のランプ
パソコンの電源が切れている場合	状況により異なります	
10Mbps で接続	消灯	緑色に点滅
100Mbps で接続	緑色に点灯	緑色に点滅
1000Mbps で接続	オレンジ色に点灯	緑色に点滅

## LAN を利用して、別のパソコンから電源を制御する

ここでは、LAN による電源制御機能（Wake up on LAN 機能）を有効にするための設定方法を説明しています。

LAN による電源制御機能を有効にすると、ネットワークでつながった別のパソコンから、このパソコンの電源を入れることができるようになります。

LAN による電源制御機能は、有線 LAN によるネットワーク接続でのみ有効です。無線 LAN やその他のネットワーク（Bluetooth ワイヤレステクノロジー、IEEE 1394 による接続など）ではお使いになれません。

- 1** BIOS セットアップを起動します（→ P.36）。
- 2** 【←】キーまたは【→】キーを押して、「電源管理」または「Power」メニューを表示します。
- 3** 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「LAN によるウェイクアップ」または「Wake up on LAN」にカーソルを合わせます。
- 4** 【Space】キーまたは【-】キーを押して、「使用する」または「Enabled」にします。
- 5** 【Esc】キーを押します。
- 6** 設定を保存して BIOS セットアップを終了します（→ P.38）。
- 7** パソコンを起動します。

## 4. スリープ／休止状態

### スリープ／休止状態とは

Windows の省電力機能を使用すると、パソコンを待機状態にしているときに消費電力を抑えることができます。

ここでは、省電力機能のうち、「スリープ」と「休止状態」について説明しています。ご購入時は「スリープ（ハイブリッドスリープが有効）」に設定されています。この状態では、休止状態にすることはできません。休止状態にするには、Windows のヘルプをご覧ください。ハイブリッドスリープを無効にしてください。

#### スリープ（ハイブリッドスリープが有効）

作業中のデータなどをメモリとハードディスクに保存してパソコンを待機状態にすることです。

スリープ中に電源が切れた場合は、ハードディスクからデータを読み出します。そのため、スリープ中にメインスイッチをオフにしたり、電源プラグがコンセントから抜けても、元の状態に復旧することができます。

#### スリープ（ハイブリッドスリープが無効）

作業中のデータなどをメモリに保存してパソコンを待機状態にすることです。

スリープ中は、メインスイッチをオフにしたり、電源プラグをコンセントから抜かないでください。電源が供給されなくなるため、メモリに保存しているプログラムやデータが失われます。

#### 休止状態

作業中のデータなどをハードディスクに保存して、パソコン本体の電源を切ることです。

スリープに比べると、待機状態にしたり復帰（レジューム）したりするための時間は長くなりますが、消費電力は削減されます。

### スリープ／休止状態にするうえでの注意

ここでは、省電力機能をお使いになるときに気をつけていただきたいことについて説明しています。

- パソコンが次の状態の場合は、省電力状態にしないでください。省電力機能が正しく働かなかったり、パソコンが正常に動作しないことがあります。
  - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
  - ・ ハードディスクにアクセス中
  - ・ オートラン CD-ROM / DVD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM / DVD-ROM）を使用中
  - ・ ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
  - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
  - ・ ディスクにデータを書き込みまたは書き換え中
  - ・ ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
  - ・ マルチモニター機能を使用中
  - ・ ネットワークに接続して通信中
  - ・ マウスの操作中
  - ・ LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中
- スリープ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- ネットワークの設定によっては、スリープ中に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスの有効期限が切れると、パソコン本体がスリープから元の状態に戻ることがあります。  
この場合は、IP アドレスの有効期間を延長するか、DHCP の使用を中止して固定 IP をお使いください。
- 次の場合は、省電力状態になりません。
  - ・ DVD-VIDEO などの動画再生時
- 省電力状態にした後は、すぐに元の状態に戻さないでください。必ず、10 秒以上たってから元の状態に戻すようにしてください。




## スリープ／休止状態の設定変更


ご購入時には、一定時間パソコンを操作しないと自動的に「スリープ」になるように設定されています。

ここでは、省電力機能が働くまでの時間などを変更する方法を説明しています。

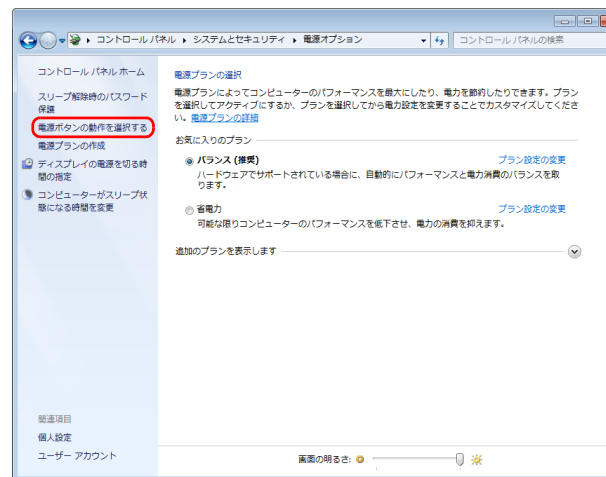
ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

### 電源ボタンやスタンバイボタンを押したときの動作を変更する

パソコン本体の  (電源) マークに触れたときや電源ボタンを押したとき、キーボードのパソコン電源ボタンやスタンバイボタンを押したときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

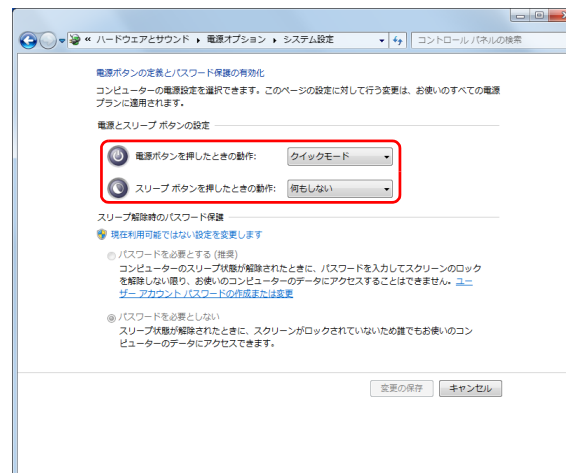
- 1  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「システムとセキュリティ」 ▶ 「電源オプション」 の順にクリックします。  
「電源オプション」 ウィンドウが表示されます。

- 2 「電源オプション」 ウィンドウ左の「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)


- 3 電源ボタンやスリープボタンの項目を変更します。

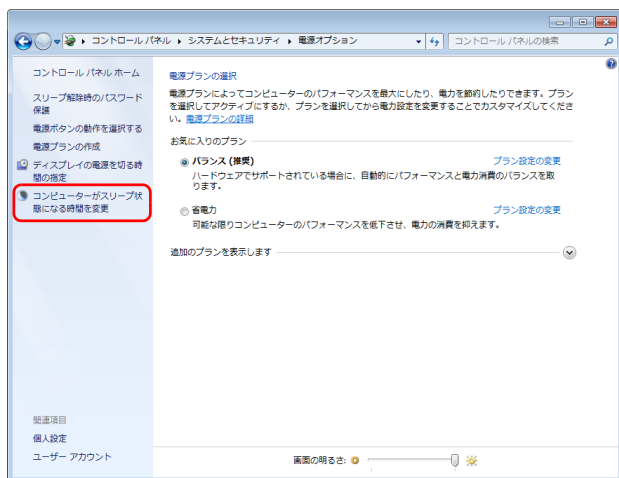


- 4 「変更の保存」をクリックします。

## スリープになるまでの時間を変更する

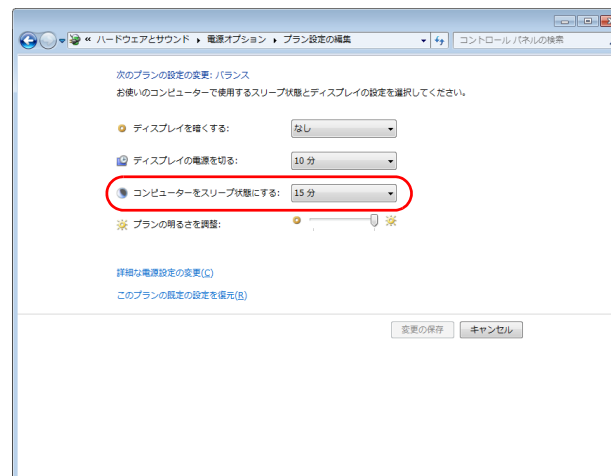
スリープになるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

- 1  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「システムとセキュリティ」 ▶ 「電源オプション」 の順にクリックします。  
「電源オプション」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「電源オプション」 ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」 をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 3 「コンピューターをスリープ状態にする」 の設定を変更します。



- 4 「変更の保存」 をクリックします。


### Point

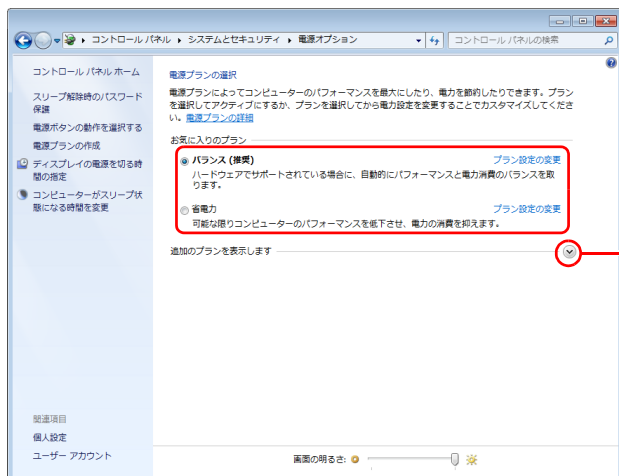
- ▶ 変更した設定を元に戻す場合は、「このプランの既定の設定を復元」 をクリックしてください。


# 電源プラン

パソコンの利用状況に応じた設定に変更することで、消費電力を抑えることができます。

ご購入時は「バランス」、「省電力」、「高パフォーマンス」が用意されています。

- 1  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「システムとセキュリティ」 ▶ 「電源オプション」 の順にクリックします。  
「電源オプション」 ウィンドウが表示されます。
- 2 お使いになる状況に適した電源プランの  をクリックして  にします。



「高パフォーマンス」を選択する場合は、「追加のプランを表示します」の  をクリックして「高パフォーマンス」を表示させます。

(画面は機種や状況により異なります)


- 3  をクリックします。


なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックすると、各プランの設定を変更することができます。

## 5. ソフトウェア

このパソコンには、あらかじめたくさんのソフトウェアがインストールされています。一度削除したソフトウェアをもう一度使いたいときや、ソフトウェアの動作がおかしくなったとき、ソフトウェアをインストールし直すことができます。

### ソフトウェアをインストール／アンインストールするうえでの注意

- ソフトウェアをインストールする前には、必ずソフトウェアのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する
- インストールし直す場合は、元のソフトウェアを削除する
- 管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンする  
ユーザーアカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はソフトウェアの削除ができません。管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンしてください。  
ユーザーアカウントの種類は、次の手順で確認できます。
  1.  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」 ▶ 「ユーザーアカウント」 の順にクリックします。  
「ユーザーアカウント」 ウィンドウが表示されます。
  2. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。  
「Administrator」 は、管理者アカウントであることを意味します。

- 起動しているソフトウェアをすべて終了する  
他のソフトウェアが起動していると、エラーが発生する場合があります。ソフトウェアの削除をする前に、次の作業を行ってください。
  - ・ 起動しているソフトウェアをすべて終了する
  - ・ タスクバーに常駐するタイプのソフトウェアをすべて終了する
  - ・ スクリーンセーバーを「なし」に設定する
    1.  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「デスクトップのカスタマイズ」 の順にクリックします。
    2. 「個人設定」 の「スクリーンセーバーの変更」 をクリックします。
    3. 「スクリーンセーバー」 を「(なし)」 にして、「OK」 をクリックします。
- 共有ファイルは削除しない  
ソフトウェアの削除中に、「共有ファイルを削除しますか？」 というメッセージが表示されることがあります。  
共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のソフトウェアが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

# インストール

## 搭載ソフトウェアをインストールする

次の手順で、ハードディスクのリカバリ領域からソフトウェアをインストールすることができます。

### 1 ① ドライバースディスクをセットします。

「ドライバースディスク検索」が起動します。

#### Point

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exe の実行」をクリックしてください。
- ▶ 「ドライバースディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
  1. (スタート)▶「コンピューター」の順にクリックします。
  2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
  3. 「DRVCDSRC.exe の実行」をクリックします。

### 2 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

### 3 「機種名」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。

パソコンの品名は、パソコン本体前面または保証書で確認することができます。

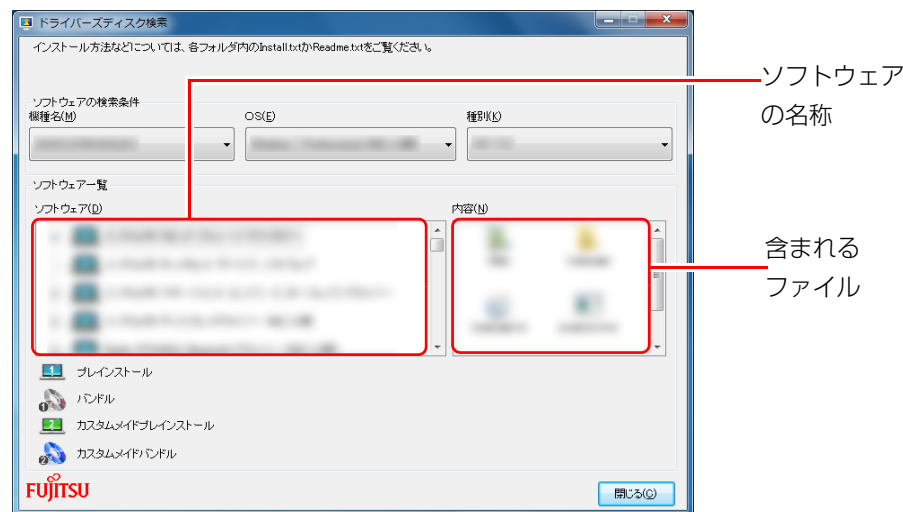
### 4 「OS」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストからお使いの OS をクリックして選択します。

### 5 「種別」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストから更新したいソフトウェアの種類をクリックして選択します。

「ソフトウェア一覧」に、選択した種類のソフトウェアが表示されます。

### 6 「ソフトウェア一覧」からインストールするソフトウェアの名称をクリックしてインストールします。

ソフトウェアの名称をクリックすると、ソフトウェアに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



(画面は機種や状況により異なります)

### 7 ソフトウェアのインストール方法は、各ソフトウェアによって異なります。それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認してください。

## Office をインストールし直す

### Office 搭載機種のみ

Office 搭載機種をお使いの方で、Office のみインストールし直したい場合は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページ をご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

## ドライバーをインストールし直す

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないうち、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。

### ■ お使いのパソコンに搭載されているドライバーについて

- インターネットに接続してドライバーを更新する  
各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。  
ご購入時に添付されているものよりも新しいバージョンのドライバーがインターネット上で公開されている場合があります。  
ドライバーなどの最新情報は、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」をご覧ください。
- インターネット上に最新のドライバーがない場合は、ドライバーを削除し、再インストールしてください。
- ドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。
- ドライバーの格納されているフォルダーは、次の手順でご確認ください。
  1. 「ドライバーズディスク検索」を起動します。  
「搭載ソフトウェアをインストールする」(→ P.28) の手順 1～5 を行ってください。
  2. 「ソフトウェア一覧」から更新したいドライバーをクリックして選択します。  
選択したドライバーの格納されているフォルダーの内容が表示されます。

### Point

- ▶ プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。



# アンインストール

## ソフトウェアのアンインストール機能を使う

Windows に対応したソフトウェアには、アンインストール機能（ソフトウェアを削除する機能）が用意されているものがあります。ソフトウェアによって操作方法が異なります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

### 「プログラムのアンインストール」機能を使う

「コントロールパネル」にある「プログラムのアンインストール」機能で、ソフトウェアを削除できます。削除方法は次のとおりです。


- 1 起動しているソフトウェアをすべて終了します。
- 2  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「プログラム」 の「プログラムのアンインストール」の順にクリックします。
- 3 一覧から削除したい項目をダブルクリックします。
- 4 画面の指示に従ってソフトウェアを削除します。
- 5 ソフトウェアの削除が終了したら、「プログラムと機能」ウィンドウで、 をクリックします。

#### Point

- ▶ 「プログラムのアンインストール」機能で削除できないソフトウェアについては、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。
- ▶ 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

## ソフトウェアを削除した後に


### ■ 削除したソフトウェア名がメニューに残った場合

削除しても、 (スタート) ▶ 「すべてのプログラム」で表示されるメニューの中に削除したソフトウェア名が残り、ポイントすると「(なし)」と表示される場合があります。ソフトウェア名を右クリックし、表示されるメニューから「削除」をクリックして、「はい」をクリックするとメニューから削除できます。

### ■ パソコンを起動するたびにエラーが表示されるときは

ソフトウェアを削除しても、「スタートアップ」フォルダーに、そのソフトウェアのショートカットアイコンが登録されたままになっていると、「ショートカットエラー」というメッセージが表示されることがあります。

次の手順で、「スタートアップ」フォルダーから、該当するショートカットアイコンを削除してください。

- 1  (スタート) をクリックします。
- 2 「すべてのプログラム」を右クリックし、表示されるメニューから「開く - All Users」をクリックします。  
「スタート メニュー」ウィンドウが表示されます。
- 3 「プログラム」 ▶ 「スタートアップ」の順にクリックします。  
登録されているソフトウェアの一覧が表示されます。
- 4 削除したいソフトウェアを右クリックし、表示されるメニューから、「削除」をクリックします。
- 5 「はい」をクリックします。

## 6. ハードディスクの領域について

### CドライブとDドライブの割合を変更する

CドライブとDドライブの割合を変更すると、すべてのデータが削除されます。本当に変更が必要か検討してから操作してください。

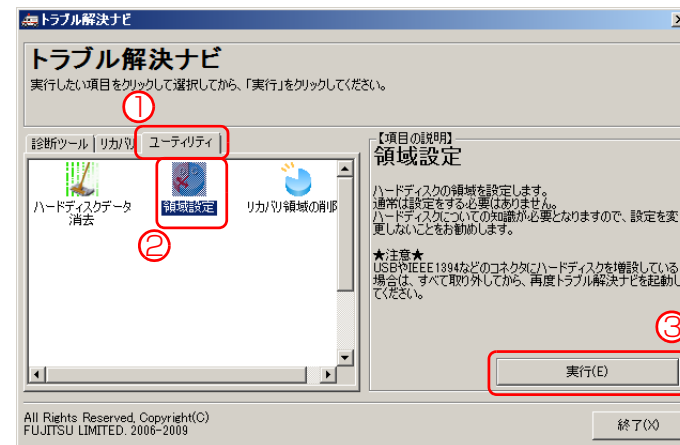
#### 注意事項

- データはすべて削除されます  
この操作をすると、ハードディスク内のデータ（Cドライブ、Dドライブ共に）がすべて削除されます。  
あらかじめ必要なデータをDVDや外付けのハードディスクなどにバックアップしておいてください。
- 外付けハードディスクやUSBメモリ、増設用内蔵ハードディスクユニットは必ず取り外してください  
接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
- NTFSに設定されます  
FAT32に設定してある場合も、Cドライブ、Dドライブ共に自動でNTFSに変更されます。
- ドライブの容量制限  
Cドライブは50GB、Dドライブは1GBより小さい容量には変更できません。
- 領域設定を変更するときは、必ず「トラブル解決ナビ」をお使いください  
市販のソフトウェアや、Windows 7の「ディスクの管理」で領域設定を変更してしまうと、「バックアップナビ」の「パソコンの状態」のバックアップや復元、およびCドライブをご購入時の状態に戻すリカバリなどができなくなります。  
この場合は、「リカバリ領域を復元する」(→ P.34) をご覧になり、「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を実行してください。
- LIFEBOOKをお使いの方は、必ずACアダプタを接続してください

### 領域設定の変更手順

- 1 「トラブル解決ナビ」を起動します。  
『取扱説明書』－「Q&A」－「トラブル発生時の基本的な対処」－「トラブル解決ナビ」を起動する－「ハードディスクから起動する」をご覧ください。

- 2 次の画面の操作をします。

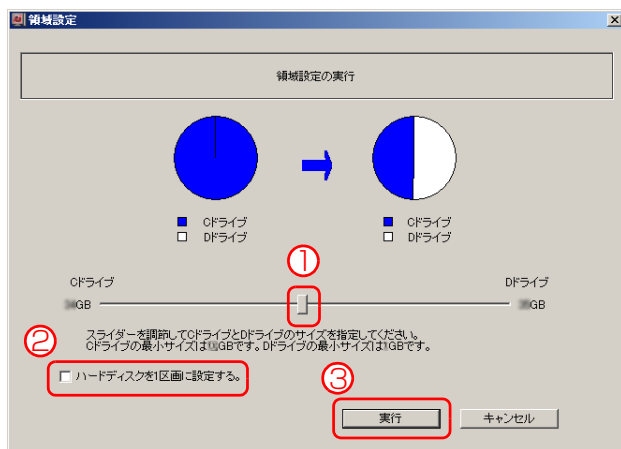


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- ① 「ユーティリティ」タブをクリックします。
  - ② 「領域設定」をクリックします。
  - ③ 「実行」をクリックします。
- 3 「ご使用上の注意」が表示されたら、「同意する」をクリックして☑にし、「次へ」をクリックします。



#### 4 領域を設定します。



##### ●CドライブとDドライブ（2区画）を作成する場合

①スライダーを左右にドラッグして、CドライブとDドライブの容量を指定し、③「実行」をクリックします。  
容量は1GB単位で指定できます。

##### ●Cドライブのみ（1区画）を作成する場合

②「ハードディスクを1区画に設定する。」にチェックをつけ、③「実行」をクリックします。

### 重要

▶ 領域設定を変更していなくても、「実行」をクリックすると、CドライブとDドライブの全てのデータが削除されます。

#### 5 確認画面が表示されたら「はい」をクリックします。

ハードディスクの領域が設定されます。

#### 6 「完了」をクリックします。

「トラブル解決ナビ」が表示されます。

#### 7 この後、Cドライブをご購入時の状態に戻します。

☞『取扱説明書』－「ご購入時の状態に戻す」－「ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する」をご覧ください。

ご購入時に戻すリカバリを実行すると、領域の変更が完了します。

## リカバリ領域を削除する

リカバリ領域を削除して、その分ハードディスクの使用できる容量を増やすことができます。

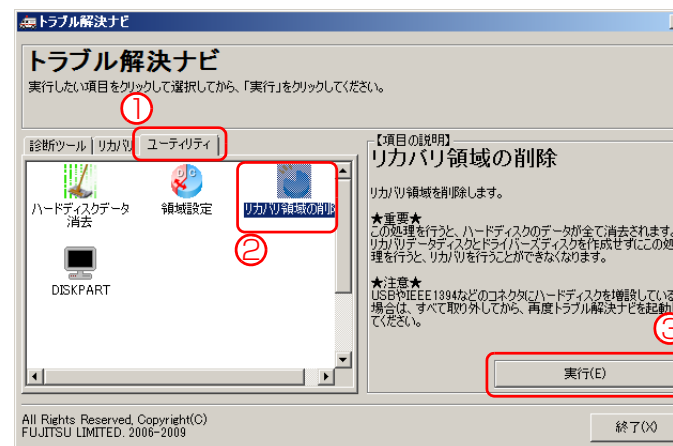
ただしリカバリ領域を削除すると、ハードディスクのCドライブとDドライブがご購入時の状態に戻ります。そのためすべてのデータが削除されます。本当にリカバリ領域の削除が必要か検討してから操作してください。

### 注意事項

- ハードディスクの内容はすべて削除されます  
あらかじめ必要なデータをDVDや外付けのハードディスクなどにバックアップしておいてください。  
リカバリ領域の削除後にはリカバリディスクセットを使ってご購入時の状態に戻すリカバリを行う必要があります
- リカバリ用のディスクを必ず作成してください。  
作成方法は『取扱説明書』－「付録」－「リカバリ用のディスクを作っておく」をご覧ください。また購入することもできます。購入方法は『取扱説明書』－「ご購入時の状態に戻すリカバリの準備」－「ディスクが必要な場合」をご覧ください。
- 外付けハードディスクやUSBメモリ、増設用内蔵ハードディスクユニットは必ず取り外してください  
接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
- LIFEBOOKをお使いの方は、必ずACアダプタを接続してください

## リカバリ領域の削除手順

- 1 ①「トラブル解決ナビディスク」を使って「トラブル解決ナビ」を起動します。  
『取扱説明書』－「Q&A」－「トラブル発生時の基本的な対処」－「トラブル解決ナビ」を起動する－「「トラブル解決ナビディスク」から起動する」をご覧ください。
- 2 次の画面の操作をします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- ① 「ユーティリティ」タブをクリックします。
  - ② 「リカバリ領域の削除」をクリックします。
  - ③ 「実行」をクリックします。
- 3 ご使用上の注意が表示されたら、内容をよくお読みになり、同意する場合は「同意する」をクリックして☑にし、「次へ」をクリックします。「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。

#### 4 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. ディスクの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリを実行する

の順に進んでいきます。画面のメッセージに従って操作を進めてください。  
「リカバリが正常に完了しました。」と表示されたら手順5に進んでください。

#### 5 ディスクを取り出し、「完了」をクリックします。

パソコンの電源が自動的に切れます。

#### 6 30 秒以上待ってから電源を入れます。

#### 7 セットアップを行います。

📖『取扱説明書』－「セットアップする」をご覧ください。ただし、ユーザー登録は再度行う必要はありません。

## リカバリ領域を復元する

削除したリカバリ領域を復元するためには「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を行います。リカバリ領域のみ復元することはできません。

リカバリ用のディスクを用意してください。

### 注意事項

- ハードディスクの内容はすべて削除されます  
リカバリ領域を復元するときに、ハードディスクの領域が設定し直されます。このためハードディスクの内容はすべて削除されます。あらかじめ必要なデータをDVDや外付けのハードディスクなどにバックアップしておいてください。
- リカバリ用のディスクが必要です  
リカバリ領域の復元には、リカバリ用のディスクが必要です。  
リカバリ用のディスクを作成していない場合や、紛失・破損された場合は購入できません。購入方法は📖『取扱説明書』－「ご購入時の状態に戻すリカバリの準備」－「ディスクが必要な場合」をご覧ください。
- 外付けハードディスクやUSBメモリ、増設用内蔵ハードディスクユニットは必ず取り外してください  
接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
- LIFEBOOK をお使いの方は、必ず AC アダプタを接続してください

## リカバリ領域の復元手順

### 1 「トラブル解決ナビディスク」を使って「トラブル解決ナビ」を起動します。

☞『取扱説明書』－「Q&A」－「トラブル発生時の基本的な対処」－「トラブル解決ナビ」を起動する－「「トラブル解決ナビディスク」から起動する」をご覧ください。

### 2 次の画面の操作をします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- ① 「リカバリ」タブをクリックします。
- ② 「全ドライブをご購入時の状態に戻す」をクリックします。
- ③ 「実行」をクリックします。

### 3 ご使用上の注意が表示されたら、内容をよくお読みになり、同意する場合は「同意する」をクリックして☑にし、「次へ」をクリックします。

### 4 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. ディスクの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリ領域にリカバリデータを復元する
4. リカバリを実行する

の順に進んでいきます。画面のメッセージに従って操作を進めてください。「リカバリが正常に完了しました。」と表示されたら手順5に進んでください。

#### Point

- ▶ Windows 7 Home Premium 搭載機種では、「ドライバースディスク (Windows 8)」の復元は必要ありません。「3. リカバリ領域にリカバリデータを復元する」ときに、画面に「「ドライバースディスク (Windows 8)」を復元しない場合は、下のチェックボックスをチェックして、「次へ」をクリックしてください。」と表示されたら、「「ドライバースディスク (Windows 8)」の復元をスキップ」をクリックして☑にしてください。

### 5 ディスクを取り出し、「完了」をクリックします。

パソコンの電源が自動的に切れます。

### 6 30 秒以上待ってから電源を入れます。

セットアップを行います。

☞『取扱説明書』－「セットアップする」をご覧ください。ただし、ユーザー登録は再度行う必要はありません。

# 7. BIOS の設定

## BIOS セットアップの操作

### BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが利用できるように、パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき

#### Point

- ▶ BIOS セットアップの設定項目については、BIOS セットアップ画面の「項目ヘルプ」をご覧ください。

### BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、電源が切れた状態（Windows をシャットダウンした状態）から操作を始めてください。

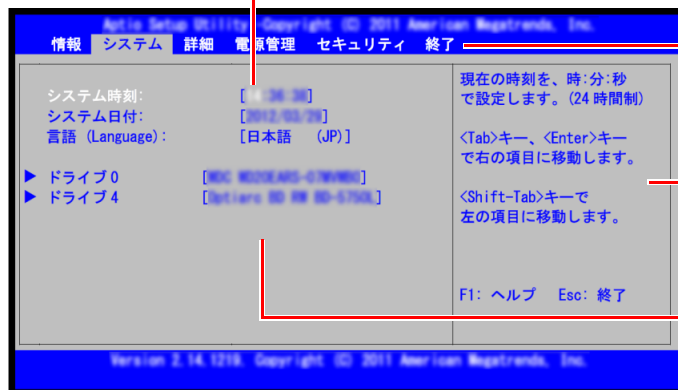
#### Point

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 1 からやり直してください。

- 1 【F2】 キーを押しながらパソコンの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」のロゴマークが表示された後、BIOS セットアップ画面（→ P.37）が表示されたら【F2】キーから指を離します。

## BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割

カーソル  
設定する項目に合わせます。



(画面は機種や状況により異なります)

- メニューバー  
メニューの名称が表示されます。
- 項目ヘルプ  
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。
- 設定フィールド  
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

## 設定を変更する

設定の変更はキーボードで行います。

### 重要

- ▶ BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

- 1 **[←] キーまたは [→] キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。**
- 2 **[↑] キーまたは [↓] キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。**  
「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。  
「▶」が付いている項目にカーソルを合わせて **[Enter]** キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは **[Esc]** キーを押します。
- 3 **[Space] キーまたは [-] キーを押して、設定を変更します。**  
項目の中には、数値を入力するものもあります。  
画面の右に、各設定値の説明が表示されます。参考にしてください。  
さらに他の項目の設定を変更したいときは、手順 1 から繰り返します。
- 4 **設定を保存して終了します (→ P.38)。**

## ■ 設定時に使う各キーの役割

設定時によく使用するキーは、次のとおりです。

- **【↑】キー、【↓】キー**  
設定する項目にカーソルを移動します。
  - **【←】キー、【→】キー**  
メニューを切り替えます。
  - **【Enter】キー**  
「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。  
設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
  - **【Space】キー**  
キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーのことです。各項目の設定値を変更します。
- 【F1】キー**を押すと、この他に使用できるキーの案内が画面に表示されます。

## BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

### 1 【Esc】キーを押します。

「終了」または「Exit」メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」または「Exit」メニューが表示されるまで、**【Esc】**キーを2～3回押してください。

### 2 次のいずれかの操作を行います。

#### ● 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、再起動する場合

1. **【↑】**キーまたは**【↓】**キーを押して、「変更を保存して終了する（再起動）」または「Exit Saving Changes」にカーソルを合わせ、**【Enter】**キーを押します。
2. **【←】**キーまたは**【→】**キーを押して、「はい」または「Yes」にカーソルを合わせ、**【Enter】**キーを押します。  
BIOS セットアップが終了します。

#### ● 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、電源を切る場合

1. **【↑】**キーまたは**【↓】**キーを押して、「変更を保存して終了する（電源OFF）」または「Save & Turn-Off」にカーソルを合わせ、**【Enter】**キーを押します。
2. **【←】**キーまたは**【→】**キーを押して、「はい」または「Yes」にカーソルを合わせ、**【Enter】**キーを押します。  
BIOS セットアップが終了します。

#### ● 設定を変更しないで終了する場合

1. **【↑】**キーまたは**【↓】**キーを押して、「変更を保存せずに終了する（起動）」または「Exit Discarding Changes」にカーソルを合わせ、**【Enter】**キーを押します。
2. **【→】**キーまたは**【←】**キーを押して、「いいえ」または「No」にカーソルを合わせ、**【Enter】**キーを押します。  
BIOS セットアップが終了します。

## BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

- 1 BIOS セットアップを起動します。**
- 2 【Esc】 キーを押します。**  
「終了」または「Exit」メニューが表示されます。
- 3 【↑】 キーまたは【↓】 キーを押して、「標準設定値を読み込む」または「Load Setup Defaults」にカーソルを合わせ、【Enter】 キーを押します。**  
「標準設定値を読み込みますか？」または「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。
- 4 【←】 キーまたは【→】 キーを押して、「はい」または「Yes」にカーソルを合わせ、【Enter】 キーを押します。**  
BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
- 5 BIOS セットアップを終了します。**  
「BIOS セットアップを終了する」(→ P.38) の手順 2 に従って、設定内容を保存して終了してください。

## BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS のパスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。

BIOS のパスワードは、Windows が起動する前の設定なので、Windows のログインパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

### BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- スリープから元の状態に戻るとき (スリープ中に電源が切れた場合のみ)
- 休止状態から元の状態に戻るとき

また、BIOS のパスワードといっしょにハードディスクセキュリティを設定すると、ハードディスクの盗難による情報漏洩や不正使用を防止できます。



パスワードの入力を要求されるタイミングは、BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」で設定します。

- 使用しない  
BIOS セットアップを始めるときにパスワードを要求されます。
- 最初のみ  
パソコンの電源を入れたときにパスワードを要求されます。
- 毎回  
パソコンの電源を入れたとき、パソコンを再起動したとき、およびスリープから元の状態に戻るときにパスワードを要求されます。

### Point

- ▶ 「セキュリティ」メニューの「自動ウェイクアップ時」を「使用しない」に設定している場合、「起動時のパスワード」を「最初のみ」または「毎回」に設定しても、Wake up on LAN 機能などを使ってパソコンを自動的に起動する場合にはパスワードを要求されません。

## BIOS のパスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンで BIOS のパスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

- パスワード設定時は、必ず次のことを行ってください。  
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。  
そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
  - ・「パスワードを変更する」(→ P.42) および「パスワードを削除する」(→ P.43) を印刷しておく
  - ・設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておくまた、これらは安全な場所に保管しておいてください。  
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます。  
ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしてもパスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。  
パスワードの管理には充分注意してください。
- 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが正しくありません。」または「Invalid Password」というメッセージが表示されます。  
その場合は、【Enter】キーを押し、正しいパスワードを入力してください。
- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。  
その場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し、パソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

## パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

- 管理者用パスワード  
このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード  
「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード  
このパソコンのハードディスクを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ハードディスクを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ハードディスクが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

## パスワードを設定する

パスワードを設定する方法を説明します。

- 1 BIOS セットアップを起動します。**
- 2 【←】キーまたは【→】キーを押して「セキュリティ」または「Security」にカーソルを合わせます。**  
「セキュリティ」または「Security」メニューが表示されます。
- 3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、設定したいパスワードの項目を選び、【Enter】キーを押します。**  
次のいずれかの項目を選択します。
  - ・管理者用パスワード設定または Set Supervisor Password
  - ・ユーザー用パスワード設定または Set User Password
  - ・ハードディスクセキュリティまたは Hard Disk Security▶
    - ドライブ0用パスワード設定または Set Drive0 Passwordパスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 4 1～32桁までのパスワードを入力します。**
  - ・入力できる文字種はアルファベットと数字です。
  - ・入力した文字は表示されず、代わりに「\*」が表示されます。
- 5 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。**  
パスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。

- 6** 手順4で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
  - ・パスワードが一致した場合は、「変更が保存されました。」または「Changes have been saved.」というメッセージが表示されます。
  - ・パスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」または「Passwords do not match. Re-enter password.」というメッセージが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。
  - ・パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。
- 7** 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
- 8** BIOS セットアップを終了します (→ P.38)。  
設定内容を保存して終了してください。

## パスワードを変更する／削除する

### ■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1** BIOS セットアップの「セキュリティ」または「Security」メニューから、変更したいパスワードの項目を選び、【Enter】キーを押します。「パスワードを設定する」(→ P.41) の手順1～3を行ってください。
- 2** 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。  
新しいパスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3** 1～32桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。  
パスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。
- 4** 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
  - ・パスワードが一致した場合は、「変更が保存されました。」または「Changes have been saved.」というメッセージが表示されます。
  - ・パスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」または「Passwords do not match. Re-enter password.」というメッセージが表示されます。【Enter】キーを押して、手順1からやり直してください。
  - ・パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。
- 5** 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

**P**oint

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。  
その場合は、電源ボタンを 4 秒以上押してパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

**■ パスワードを削除する**

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順 3～4 で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

## BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。


### メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

- 1 BIOS セットアップの設定値を標準設定値（ご購入時の設定）に戻して起動し直してください。**  
それでもメッセージが表示される場合は、手順 2 に進んでください。
- 2 周辺機器を取り外します。**  
別売の周辺機器やメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらの周辺機器を取り外し、パソコンの電源を入れ直して、動作を確認してください。  
それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- 3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。**  
取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付け、パソコンの電源を入れ直して、動作を確認してください。  
また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

これらの処置をしても、まだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、『取扱説明書』－「サポートのご案内」をご覧ください。

## メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージ一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

### ● **BOOT:Couldn't find NTLDR**

#### **Please insert another disk**

FDD ユニット (USB) に、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

### ● **BOOT Failure**

#### **Press any key to continue**

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「詳細」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

### ● **Bus:nnh Dev:nnh Fun:nnh PCI Parity Error**

#### **Bus:nnh Dev:nnh Fun:nnh PCI パリティエラー**

拡張カードを取り付けているときは、拡張カードが正しく取り付けられていることを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

### ● **Bus:nnh Dev:nnh Fun:nnh PCI System Error**

#### **Bus:nnh Dev:nnh Fun:nnh PCI システムエラー**

拡張カードを取り付けているときは、拡張カードが正しく取り付けられていることを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

### ● **CPU ファンエラー。システムの電源が切れます。**

CPU ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

### ● **CPU Fan Error**

#### **CPU ファンエラーまたは CPU ファンが接続されていません。**

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

### ● **Event Log area is full. No more events will be logged.**

#### **To clear event logs, please enter BIOS Setup.**

**イベントログの記録領域が一杯になりました。**

**BIOS セットアップを起動して、イベントログを削除してください。**

イベントログの記録領域がいっぱいになったことを示しています。

【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、「詳細」メニューで「イベントログ設定」－「イベントログの消去」の順に選択して【Enter】キーを押してください。確認のメッセージが表示されるので、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押してください。

### ● **<F1>キーを押すと継続、<F2>キーを押すと BIOS セットアップを起動します。**

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。発生しているエラーを無視して OS を起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を変更する場合は【F2】キーを押してください。

● **Invalid NVRAM Data**

NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。  
本メッセージが表示されているときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

● **Invalid system disk**

**Replace the disk, and then press any key**

FDD ユニット (USB) に、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

● **Keyboard/Interface Error.**

**キーボードコントローラのエラーです。**

キーボードコントローラのテストでエラーが発生したことを示しています。  
キーボードが正しく接続されていることを確認し、電源を入れ直してください。  
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。


● **Non-System disk or disk error**

**Replace and press any key to ready**

FDD ユニット (USB) に、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

● **NTLDR is missing**

**Press any to restart**

「マイリカバリ」の準備ができていないことを示します。  
【Space】キーなどを押し、本パソコンを再起動してください。  
「マイリカバリ」については、『取扱説明書』-「バックアップ」をご覧ください。

● **NVRAM データが正しくありません。**

NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。  
本メッセージが表示されているときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

● **Press F1 to resume**

**Press F2 to Run Setup**

**< F1 >キーを押すと続きます。**

**< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。**

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。発生しているエラーを無視して OS を起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を変更する場合は【F2】キーを押してください。

● **Remove disks or other media**

**Press any key to restart**

FDD ユニット (USB) に、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

● **System CMOS checksum bad**

**システム CMOS のチェックサムが正しくありません。**

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。

【F2】キーを押して、BIOS セットアップを起動し、BIOS をご購入時の設定に戻してください (→ P.39)。

それでも本メッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

● **System Disabled**

**システムは使用できません。**

不正確なパスワードが入力されました。電源ボタンを押して電源を切り、もう一度このパソコンの電源を入れてください。

パスワードを忘れてしまった場合は、修理が必要になります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

● **拡張メモリエラー。アドレス行：nn**

拡張メモリのテスト中にエラーが発見されたことを示しています。  
本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

● **キーボードエラーです。**

キーボードテストでエラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

● **システムCMOSのチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。**

CMOS RAMのテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。  
【F2】キーを押して、BIOS セットアップを起動し、BIOS をご購入時の設定に戻してください（→ P.39）。  
それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

● **システムタイマーのエラーです。**

システムタイマーのテストでエラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

● **システムファンエラー。システムの電源が切れます。**

システムファンのテストでエラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

● **前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。**

前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。  
起動途中で電源を切ってしまったたり、BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったり、または3回以上同じ操作で起動し直したりしたときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。

● **前回の起動中にCPUファンエラーが発生しました。**

前回の起動時の自己診断テスト中に、CPU ファンエラーが発生していたことを示します。

● **前回の起動中にシステムファンエラーが発生しました。**

前回の起動時の自己診断テスト中に、システムファンエラーが発生していたことを示します。

● **ディスクのエラーです。: ハードディスク n**

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

● **日付と時刻の設定を確認してください。**

日付と時刻の設定値が正しくありません。  
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

● **リアルタイムクロックのエラーです。**

リアルタイムクロックのテストでエラーが発生したことを示しています。  
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

## 文字コードの取り扱いに関する注意

### 環境依存文字の取り扱いについて

環境依存文字とは、お使いのソフトウェアや相手のパソコンの環境によって、正しく表示されない可能性のある文字のことです。

文書データなどを作成するときに環境依存文字を使用すると、Eメールやホームページ上で字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

環境依存文字を使用すると、次のようなトラブルが起きることがあります。トラブルを避けるため、環境依存文字はできるだけ使用しないことをお勧めします。

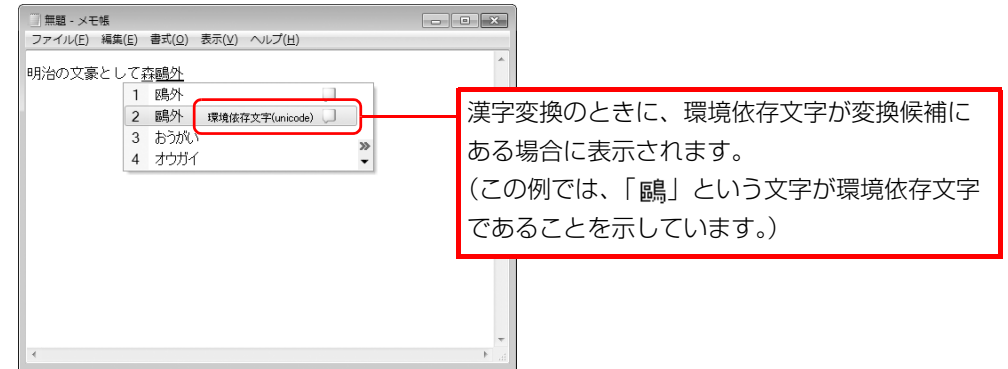
- Eメールのやり取りで環境依存文字を使用すると、送信側と受信側で、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
- ソフトウェアが環境依存文字に対応していない場合、ソフトウェアが環境依存文字を正しく表示したり認識したりできない場合があります。
- お使いのプリンターによっては、環境依存文字を使用して印刷すると、字形が異なったり崩れたりして印刷される場合があります。
- インターネットのサイトなどで運用側のシステムが環境依存文字に対応していない場合、環境依存文字を入力すると、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

例 ショッピングサイト、検索サイト、ブログ、ホームページ、インターネット掲示板など

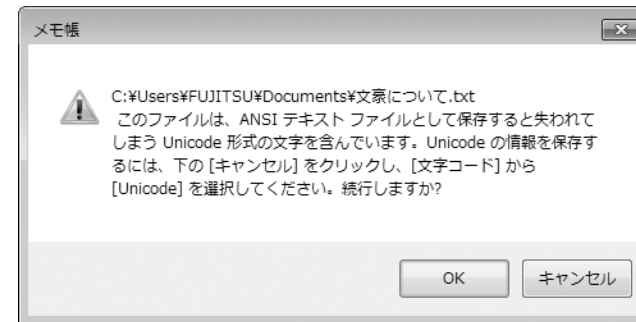
Windows 7 では、環境依存文字を取り扱うときに、注意をうながすメッセージが表示されます。

次に表示されるメッセージの例を説明します。

#### 例 1 文字入力中に環境依存文字を示すメッセージ



#### 例 2 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されるメッセージ

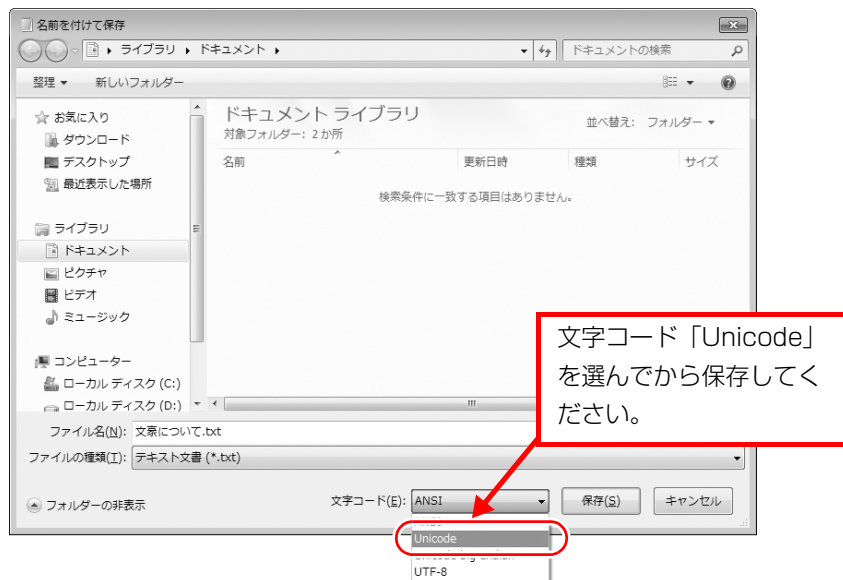


- 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されます。「キャンセル」をクリックすると作成中の状態に戻るので、環境依存文字を変更して保存し直すことをお勧めします。



**P**oint

- ▶ 文字コードを他の形式にして保存するには  
環境依存文字を含んだファイルは、次のように文字コードを Unicode 形式にすることで保存できます。  
ただし、Unicode に対応していない OS やソフトウェアでこのファイルを開くと、文字化けを起こしたり正常に表示されなかったりする場合がありますのでご注意ください。



## Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性

Windows 7 および Windows Vista は、日本工業規格「JIS X 0213:2004」に対応しています。Windows XP 以前の OS は「JIS X 0213:2004」に対応していないため、「JIS X 0213:2004」で新たに追加された文字や字形変更された文字を使用して作った文書データは、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。また、Windows XP 以前の OS で作られた文書データに、「JIS X 0213:2004」で字形変更された文字が含まれる場合は、異なった字形で表示されます。

□参考：JIS X 0213:2004 改正における字形変更の比較（一例）

改正後字形：Windows 7 および Windows Vista 改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
5026	倦	倦	5C60	屠	屠	6753	杓	杓	701E	滯	滯
50C5	僅	僅	5DF7	巷	巷	6962	檜	檜	7026	瀦	瀦
5132	儲	儲	5E96	庖	庖	698A	榭	榭	7058	灘	灘
51A4	冤	冤	5EDF	廟	廟	6994	榔	榔	707C	灼	灼
537F	卿	卿	5FBD	徽	徽	69CC	槌	槌	7149	煉	煉
53A9	厩	厩	6062	恢	恢	6A0B	榑	榑	714E	煎	煎
53DB	叛	叛	6108	愈	愈	6A3D	樽	樽	717D	煽	煽
54E8	哨	哨	6241	扁	扁	6ADB	櫛	櫛	7259	牙	牙
55A9	喻	喻	6357	抄	抄	6B4E	歎	歎	7337	猷	猷
5632	嘲	嘲	6372	捲	捲	6C72	汲	汲	7511	甌	甌
5642	噂	噂	63C3	掬	掬	6DEB	淫	淫	75BC	疼	疼
564C	噌	噌	647A	摺	摺	6EA2	溢	溢	77A5	瞥	瞥
56C0	轉	轉	64B0	撰	撰	6EBA	溺	溺	7941	祗	祗
5835	堵	堵	64E2	擢	擢	6F23	漣	漣	7947	祇	祇
5C51	屑	屑	6666	晦	晦	7015	瀕	瀕	79B0	禰	禰

UCS: Universal multiple-octet coded Character Set

改正後字形：Windows 7 および Windows Vista 改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
79E4	稗	稗	84EC	蓬	蓬	8CED	賭	賭	9306	鍔	鍔
7A7F	穿	穿	8511	蔑	蔑	8FBB	辻	辻	939A	鍔	鍔
7B08	笈	笈	853D	蔽	蔽	8FBF	辿	辿	9453	鍔	鍔
7B75	筵	筵	85A9	薩	薩	8FC2	迂	迂	9784	鞞	鞞
7BAD	箭	箭	85AF	薯	薯	8FC4	迄	迄	9798	鞞	鞞
7BB8	箸	箸	85F7	藹	藹	8FE6	迓	迓	98F4	飴	飴
7BC7	篇	篇	86F8	蛸	蛸	9017	逗	逗	9905	餅	餅
7BDD	籊	籊	8755	蝕	蝕	9019	這	這	990C	餌	餌
7C3E	簾	簾	8956	襖	襖	9022	逢	逢	9957	饗	饗
7C7E	粿	粿	8A1D	訝	訝	903C	逼	逼	9A19	騙	騙
7FEB	翫	翫	8A3B	註	註	9041	遁	遁	9BD6	鯖	鯖
7FF0	翰	翰	8A6E	詮	詮	905C	遜	遜	9C2F	鰯	鰯
817F	腿	腿	8AFA	諺	諺	9061	遡	遡	9C52	鰯	鰯
82A6	芦	芦	8B0E	謎	謎	912D	鄭	鄭	9D09	鴉	鴉
8328	茨	茨	8B2C	謬	謬	914B	曾	酋	9D60	鵠	鵠
845B	葛	葛	8C79	豹	豹						

---

ESPRIMO

補足情報

B5FK-2241-01 Z0-00

発行日 2013年7月

発行責任 富士通株式会社

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。